

# 本土諸方言の動詞形態論の歴史 的变化：ラ行五段化を中心に

シンポジウム

フィールドと文献から見る日琉諸語の系統と歴史

2018年12月23日@国立国語研究所

佐々木冠（立命館大学）k-sasaki[at]fc.ritsumei.ac.jp

※[at] を@に変更してください

用語の定義（Nida 1946, Aronoff and Fudeman 2005）

語根（root）：それ以上分解できない形態素。

語幹（stem）：単語から接辞を取り去ったあとに残る要素。

mi-na-i: mi-語根であり語幹でもある。

kaka-na-i: 語根はkak-, 否定接尾辞が選択する語幹はkaka-。

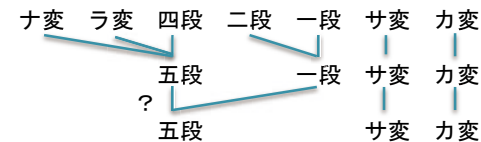
子音語幹動詞：四段活用動詞、五段活用動詞に対応。

母音語幹動詞：一段活用動詞に対応。

# ラ行五段化とは

|      | 五段活用（切る） | 一段活用（着る） | 五段化形式（着る） |
|------|----------|----------|-----------|
| 非過去形 | kiru     | kiru     | ---       |
| 条件形  | kireba   | kireba   | ---       |
| 受動形  | kirare   | kirare   | ---       |
| 使役形  | kirase   | kisase   | kirase    |
| 否定形  | kiraN    | kiN      | kiraN     |
| 命令形  | kire     | kiro, jo | kire      |
| 意志形  | kiroo    | kijoo    | kiroo     |
| 過去形  | kitta    | kita     | kitta     |

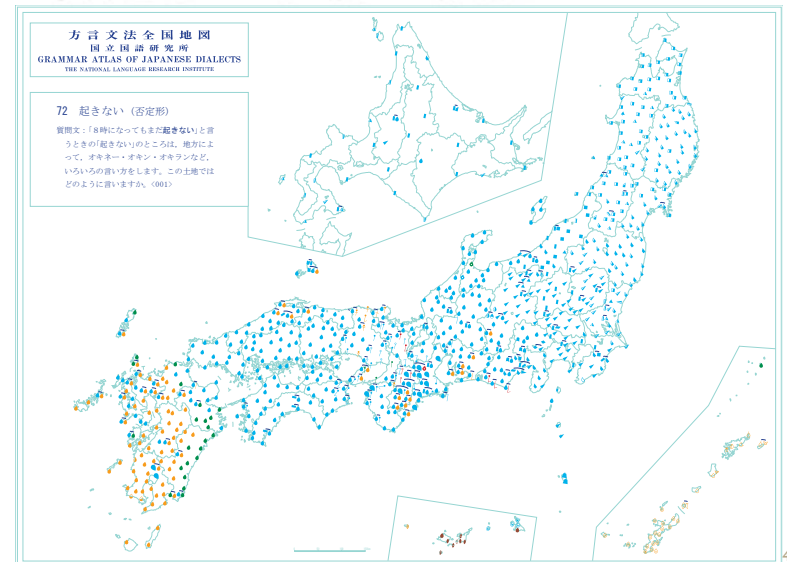
東条（1943）：ラ行五段化（良行四段化）を活用型の統合とする分析の可能性を示唆。



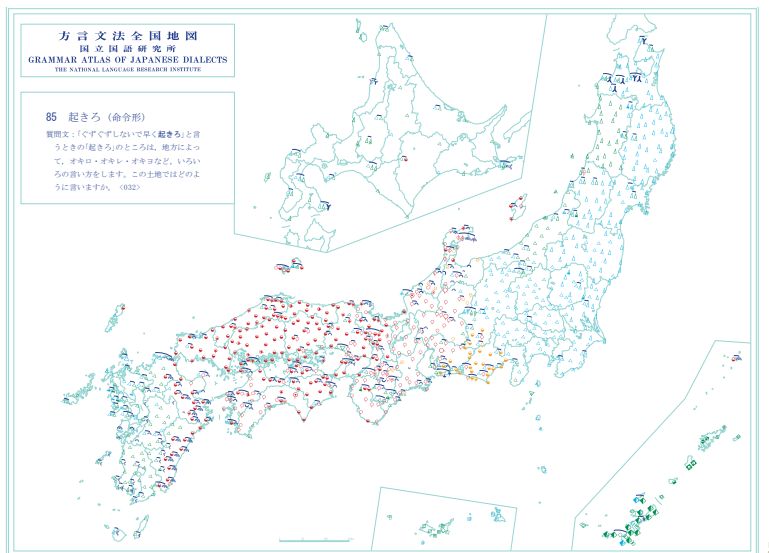
# 使役形のラ行五段化



# 否定形のラ行五段化

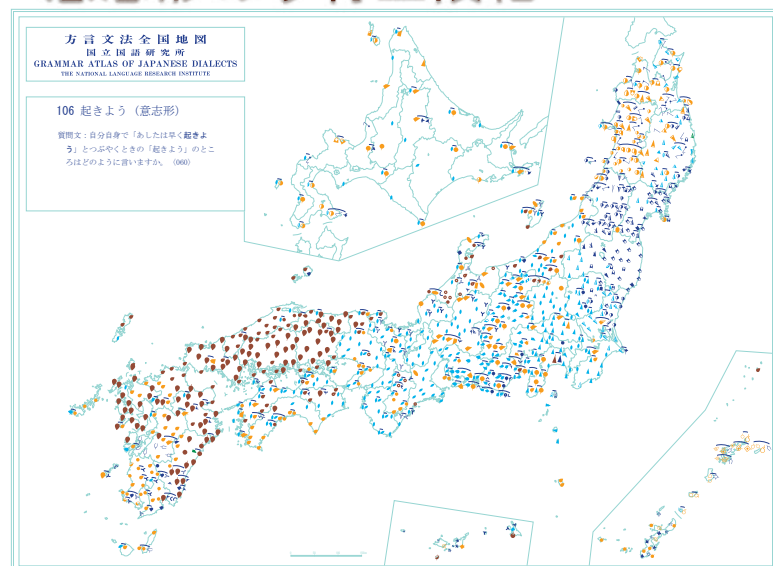


## 命令形のラ行五段化



5

## 意志形のラ行五段化



6

## 本発表の目標

- 語幹変化分析と接尾辞変化分析
  - 有効な範囲の検証
- 類推の果たす役割の検証
- 関連する現象の分析
  - 脱ラ行五段化
  - ニゲロバ (逃げれば)

7

## 語幹変化分析 (小西2014)

|     | 非ラ行五段化  | ラ行五段化             |
|-----|---------|-------------------|
| 非過去 | mir-u   | mir-u             |
| 条件  | mir-eba | mir-eba           |
| 使役  | mi-sase | mir-ase           |
| 意志  | mi-joo  | mir-oo            |
| 否定  | mi-N    | mir-aN            |
| 命令  | mi-ro   | mir-e             |
| 過去  | mi-ta   | mit-ta (← mir-ta) |

- 複数語幹が必要な場合がある。
- 「行く」
- {ik-, iQ-}
- /iQ-/がないとイ音便が期待される。
- しかし、例外。

- 「見る」
  - {mi-, mir-} > mir-
- 問題
  - ラ行五段化を起こしていない方言では全ての母音語幹動詞が複数の語幹の異形態を持つことが前提となる。
  - 現実的か？

8

## 接尾辞変化分析 (de Chene 2016)

- 連結子音/r/は/r/挿入で生じる。
  - 「書く」 kak-u, 「見る」 /mi-u/ → [miru]
- 過去形以外のラ行五段化は接尾辞の基底標示の単一化
- 問題
  - なぜ、{-ana, -na} > -anaは起きないのか？
  - 変格活用動詞の命令接尾辞のホストをどのように決定するのか？

- 使役接尾辞
  - {-ase, -sase} > -ase
  - kak-ase, mi-sase
  - > kak-ase, mi-rase
- 命令接尾辞
  - {-e, -ro/jo} > -e
  - kak-e, mi-ro
  - > kak-e, mi-re
- 否定接尾辞
  - {-aN, -N} > -aN
  - kak-aN, mi-N
  - > kak-aN, mi-raN

9

## 本発表の主張

- 語幹の変化と見ざるを得ない現象もある。
- 大部分のラ行五段化は接尾辞の変化
  - 文法の変化と語彙項目の変化
    - 使役のラ行五段化は文法（形態音韻論）の変化であり、語彙項目の変化ではない。
    - 傍証としての自発接尾辞の脱ラ行五段化
  - 類推の果たす役割：語幹の形式
  - 未然形の果たす役割
    - 東日本における否定のラ行五段化の不在
  - 一段活用の五段活用への統合というかたちでの活用形の統合は生じていない。

10

## 語幹の変化としてのラ行五段化

- 「蹴る」
  - 古典語唯一の下一段動詞
    - 鞠蹴[け]させ給ける所に、入鹿も参て蹴[け]けり（『今昔物語』）
  - 現代語の活用
  - /ker-/
    - Cf. /tor-/

|     | とる           | 蹴る           | 開ける         |
|-----|--------------|--------------|-------------|
| 否定  | toranai      | keranai      | akenai      |
| 使役  | toraseru     | keraseru     | akesaseru   |
| 連用  | tori(nagara) | keri(nagara) | ake(nagara) |
| 過去  | totta        | ketta        | aketa       |
| 非過去 | toru         | keru         | akeru       |
| 命令  | tore         | kere         | akeru       |
| 意志  | toroo        | keroo        | akejuu      |

11

## 語幹の変化としてのラ行五段化

- 大分県九重方言の「射る」
  - 糸井（1964）
  - 否定と意志でラ行五段化
  - 連用形、過去形、命令形のグルーピング

「射る」の/r/語幹化  
• /tor-/ , /jur-/ , /mi-/

|     | とる     | 射る     | 見る     |
|-----|--------|--------|--------|
| 否定  | toraN  | juraN  | miraN  |
| 連用  | tori   | juri   | mi     |
| 過去  | totta  | jutta  | mita   |
| 非過去 | toru   | juru   | miru   |
| 条件  | torjaa | jurjaa | mirjaa |
| 命令  | tore   | jure   | mijo   |
| 意志  | toroo  | juroo  | miroo  |

12

## 語幹の変化としてのラ行五段化

### 鹿児島市方言の過去形のラ行五段化

| 木部1997 | 使役      | 意志     | 否定    | 命令   | 過去    |
|--------|---------|--------|-------|------|-------|
| 着る     | kirasu? | (kiro) | kiraN | kire | kitta |

- 促音便：/kir-ta/→[kitta]
- 「着る」が/r/語幹動詞になった。
- 「見る」と「来る」の使役形のゆれ
  - 後藤（1983）
    - ナイカチ オモツ ニセイ ミサセタヤ フットカ インジャッタ
    - 何かとってお手伝い（男）に見させたら大きな犬だった

13

## 語幹の変化としてのラ行五段化

### 鹿児島市方言の過去形のラ行五段化

| 木部1997 | 使役      | 意志     | 否定    | 命令   | 過去    |
|--------|---------|--------|-------|------|-------|
| 着る     | kirasu? | (kiro) | kiraN | kire | kitta |

- 「見る」と「来る」の使役形のゆれ
  - 平塚（2018）
    - 「来させる」：キサスツ～キラスツ
  - mirasu?~ misasu?, kirasu?~ kisasu?
  - 連結子音のゆれ
  - 語幹/mi-/の存在を認め、音韻プロセスのゆれ（後述）と考えるべき。

14

## 語幹の変化としてのラ行五段化

### 鹿児島市方言の過去形のラ行五段化

- 拡張語幹としてのmir-は生じたが、mi-も存在する。
- 母音語幹動詞の語幹は変化を被った。
- しかし、母音語幹動詞の/r/語幹動詞への統合は起きていない。
  - 「見る」{mi-, mir-}
  - 「とる」/tor-/

15

## 接尾辞の変化（文法の変化）

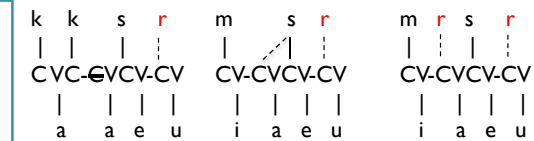
### 使役接尾辞の非線形標示

### 非ラ行五段化      ラ行五段化

### kak-ase-ru, mi-sase-ru, mi-rase-ru



/s/の二重連結と/r/挿入の動機付けはともに母音連続の回避。



実線は語彙的に指定された関係を表し、破線は派生的な関係を表す。

鹿児島方言の使役形のゆれは音韻プロセスのゆれ。

- 非ラ行五段化形式とラ行五段化形式の違いは、形態音韻論のプロセスとして、/s/の二重連結を選択するか/r/挿入を選択するかの違い。
  - /s/の二重連結はNishiyama (1999)によって提案されたもの。ただし、接尾辞第2音節頭子音からのspreadingとするのは発表者の提案。
- ラ行五段化の前も後も使役接尾辞が/-ase/であるとする点でde Chene (2016)と異なる。

16

## 傍証：脱ラ行五段化

### • 使役のラ行五段化

- /s/の二重連結 > /r/挿入
- 逆もある。



### • 21世紀に入って出現した「見ささる」

北海道方言  
伝統方言  
mi-rasar-u  
m r s r  
CV-CVCVCV-CV  
i a a u  
佐々木 (2018)

ネオ方言  
mi-sasar-u  
m s r  
CV-CVCVCV-CV  
i a a u

- 北海道方言の伝統方言の自発接尾辞の異形態は{-rasar, -asar}
- 異形態-sasarは1990年代までの文献にはない形式。
- 標準語の形態素の導入ではない。
  - 標準語には自発接尾辞がない。
- 標準語の形態音韻プロセスの導入
  - 1950年代の文献の使役{-rahe, -ahe}
  - 1990年代：-saseもある。
- 使役の標準語化を通して/s/の二重連結を獲得。

17

## 接尾辞の変化（文法の変化）

### • 意志接尾辞（jの消失と/r/挿入）

意志接尾辞 {-joo, -oo}    非ラ行五段化 kak-oo    ラ行五段化 mi-joo >    ラ行五段化後の使役接尾辞 mi-roo



- 浮動要素としての/j/を消失し、母音連続回避に/r/挿入を採用したのが、意志形のラ行五段化形式。
- 使役形のラ行五段化は、形態音韻プロセスの変化であり、接尾辞の基底形自体は変えなかった。
- 意志形のラ行五段化は、基底形で浮動要素の消失という変化が起き、さらに、/r/挿入の適用範囲の拡大（それ以前は非過去形や条件形）を被ったもの。

18

## 接尾辞基底標示の単一化

### • 命令

- 非ラ行五段化{-e, -ro/jo}: kak-e, mi-ro (mi-jo)
  - 接尾辞の異形態が音韻プロセスで導けない。
  - 接尾辞の異形態を列挙せざるを得ない。
- ラ行五段化/-e/: kak-e, mi-re
  - 接尾辞の異形態は/r/挿入で導ける。
- de Chene (2016)の接尾辞変化分析は母音語幹動詞に関しては妥当。類推不要。
- しかし、変格活用動詞に関しては問題あり。

19

## 類推の役割

### • 掃除すれ！（北海道、石垣1958）

語根と同形の語幹

- su-reの-reは/r/挿入で導ける。
- su-reのsu-を導くには類推。

語根と同形の語幹はs-またはse-

- kir-eba : kir-e = su-reba : X (X=su-re)
- kir-eba : kir-e = mi-reba : X (=mi-re)
  - 条件形からbaを引くと命令形

語根と同形の語幹

### • ニゲロバ（茨城県神栖市波崎）

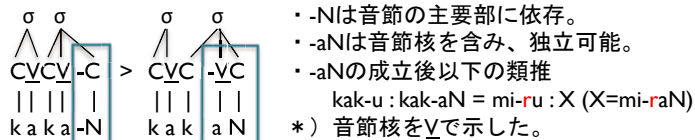
- kak-e : kak-eba = nige-ro : X (X=nige-roba)
- kak-e : kak-eba = koo : X (X=kooba)

佐々木 (2013)

20

## 形態素境界の変化（否定）

- miN > miraN
- 否定接尾辞-Nの韻律的不安定性
  - ナイに比較してンは音としての独立性が弱いために、ラを挿入することによって形態を安定させようとしたのではないか、ということである。小林（1995: 14）



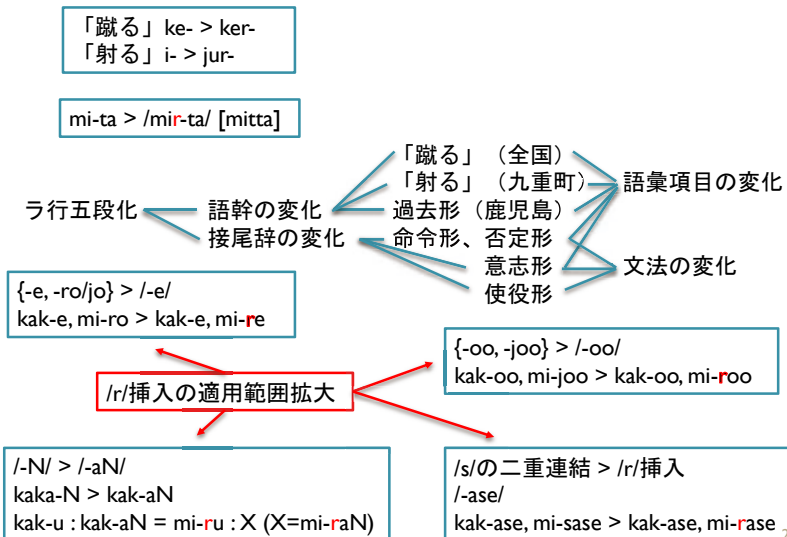
- -Nは音節の主要部に依存。
- -aNは音節核を含み、独立可能。
- -aNの成立後以下の類推  
 kak-u : kak-aN = mi-ru : X (X=mi-raN)

佐々木（2016）

## 東日本の否定接尾辞

- mi-N > mi-raNは生じたが、
- mi-na-i > \*mi-rana-iは生じなかった。
- de Chene (2016): a~∅ > r~∅
  - kak-aN, mi-N > kak-aN, mi-raN、しかし、
  - kak-ana-i, mi-na-i > kak-ana-i, \*mi-rana-iを期待
  - 韻律的条件で-ranaを排除するのは困難。
    - 東日本にも使役の-raseが存在。
    - \*-ranaも-raseも2音節2モーラ。
- 未然形語幹
  - kaka-na-i, mi-na-i (/r/挿入の条件なし)

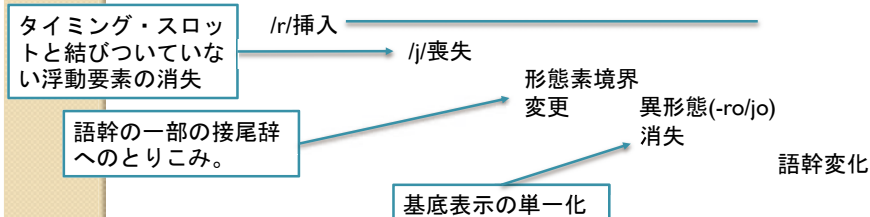
## 語彙項目の変化、文法の変化



## ラ行五段化出現率

- ラ行五段化が生起する条件がある方言の数を分母とする。
  - 使役形、命令形、過去形に関しては小林(1995)が参照した地点数807を分母とする。
  - 意志形に関してはべ類を使わず、古典語のムと同源の接尾辞を用いる地点から命令形が「...ro」で終わる地点数を引いた数を分母とする。（←同音衝突回避、彦坂2001）
  - 否定形に関しては撥音で終わる地点数から「...nuN」で終わる地点を抜いた数を分母とする。

| 語形  | 使役形   | 意志形   | 否定形   | 命令形   | 過去形  |
|-----|-------|-------|-------|-------|------|
| 出現率 | 31.7% | 26.5% | 21.5% | 14.7% | 1.2% |



## 母音語幹動詞消失？

- 首里方言
  - 上村 (1972)
    - 奄美沖縄方言群では母音語幹動詞が/r/語幹動詞に移行。
    - Cf.有元 (1993) : 母音語幹動詞の大部分は/r/語幹動詞に移行したが、単音節動詞では残存。
  - Ashworth 1973, Miyara 2009
    - /r/語幹動詞の大部分が母音語幹動詞に移行。
    - ただし、一部の単音節動詞で/r/語幹が残存。
      - 着ない ci-raN, 着る ci-juN, 着て ci-ci
      - 切らない cir-aN, 切る ci-juN (←cir-juN), 切って ciQ-ci (←cir-ti)

25

## 母音語幹動詞消失？

- 津軽方言 (坂本 2003)
  - 母音語幹動詞が/r/語幹動詞に移行。
- 問題
  - 「上がる」「上げる」の否定形が同じ音節数なのは良い。 ('aŋarɛ, 'aŋenɛ)
  - しかし、希望形と過去形で問題
    - 'aŋarite, 'aŋete
    - 'aŋaQta, 'aŋeda

「上がる・上げる」は  
/'aŋar-, 'aŋer-/

- 語幹が'aŋar-と'aŋer-では二つの語形における長さの違いを説明できない。
- 'aŋar-と'aŋe-を想定し、  
希望形 : [連用形語幹]-te  
過去形 : [ハダカ語幹]-ta  
とすれば、長さの違いは導ける。

26

## まとめ

- 「ラ行五段化」は活用型の統合を示唆する用語
  - 母音語幹動詞 (一段動詞) の子音語幹動詞 (五段動詞) への統合
- 活用型の間を移動した動詞はある。
- しかし、母音語幹動詞は消失していない。
- 大部分のラ行五段化は接尾辞の変化。
  - 類推が積極的な役割を果たす場合がある。

27

## 進行中の活用形の統合

千葉県南房総市三芳の母音語幹動詞とサ変動詞 (部分的)

|     | 見る         | する         | Cf. する (標準語) |
|-----|------------|------------|--------------|
| 非過去 | mi-ru      | si-ru      | su-ru        |
| 過去  | mi-ta      | si-ta      | si-ta        |
| 命令  | mi-ro      | si-ro      | si-ro        |
| 意志  | mi-bee     | si-bee     | si-joo       |
| 条件  | mi-reba    | si-reba    | su-reba      |
| 否定  | mi-neaa    | si-neaa    | si-na-i      |
| 使役  | mi-sase-ru | s-ase-ru   | s-ase-ru     |
| 受動  | mi-rare-ru | s-are-ru   | s-are-ru     |
| 可能  | mi-rare-ru | si-rare-ru | deki-ru      |
| 希望  | mi-teaa    | si-teaa    | si-ta-i      |

標準語  
{su-, si-, s-}  
三芳方言  
{si-, s-}

- 囲みの部分以外、サ変動詞が「一段化」している。
- ナ変、ラ変の子音語幹動詞への統合、二段動詞の一段動詞への統合
- 一段動詞の五段動詞への統合ではなく、変格活用動詞の動向に注目すべき。

28